

平成29年度第3回青梅市協働事業市民推進委員会議事録

平成29年11月16日

教育委員会会議室

出席委員9人

1 部長あいさつ

榎戸部長

川崎委員長

2 報告事項

(1) 平成29年度市民提案協働事業中間報告について

事務局より報告

委員：青梅サマーフェスティバルは、来場者は何人であったか。

事務局：来場者はカウントしなかった。

委員：参加者だけでなく、準備する側にどのくらいの人員が必要なのかなど把握することも必要である。オリンピックのカヌーは青梅が会場になっているのか。

事務局：会場ではないが、事前キャンプや練習に使用してもらえよう誘致をしているところである。

委員長：広報おうめにカヌーの記事が増えている。広報の記事と協働事業を一緒にからめられるといいのでは。

委員：行政と団体だけでなく、商店と観光とからんでいければいい協働ができるのでは。

委員長：おそきの学校と地域を考える会の事業はどうであったか。

委員：「おそきDEプチ田舎暮らし田植え体験」は多くの参加者があった。稲刈り体験は雨だったので少なかったが子どもは喜んでいた。また、自治会館を借りて昼食を食べた。「おそきDE恋活プロジェクト」は今回、男女年齢を問わず行う。

委員長：市民提案協働事業は、順調に行っていることでいいか。

事務局：順調である。

(2) その他

協働事業推進員研修の開催結果について事務局より報告

委員長：アンケート結果で、研修にとり入れてほしいことについての

設問では、市民公益活動団体と協働を行う上での具体的なコ
ツの回答が多くあったので、協働について悩んでいるのかと
感じた。

3 協議事項

(1) 平成28年度協働事業の評価について

委員：全体のイメージであるが、市民提案協働事業が進んできたと
感じる。イベントも活発に行われるようになり、若い方の活
動も活発になってきた。60代～70代の方をうまく、巻き
込んでいければ底力的に進むのではないかと感じた。

委員長：活動している内容をPRできるといい。

委員：評価シートの負担にならないといいが、評価シートに写真を
いれられないか。また、継続している事業の開始時期がわか
るといいのでは。

委員：市民センターで市民提案協働事業紹介をパネル展示している
ことはいいと思う。

委員長：市の広報に市民提案協働事業の報告事項を掲載できるといい。

委員：男女平等情報誌「四つばの手紙」に取りいれてもらい掲載で
きるといい。

委員長：編集方針によるかと思う。

4 その他

委員長：情報交換としたいので、委員の方意見はありませんか。

委員長：市内の高齢者施設が子ども食堂をしており、準備会に参加を
している。会場を探しているが行政は空き家の情報を教えるこ
とはできないとのことのようなのである。情報提供についてなど行
政と民間がうまく動くことができるといい。

委員：空き家バンクではホームページに写真を掲載している。

委員長：民間が行っている事業で問題が起きた場合に、行政は自分た
ちで解決してほしい感じがある。ボランティアセンターに相談
すればよかったのかもしれない。

委員：空家の使用目的によるが、まちづくりなのか、居場所づくり
なのか、内容を進めていくうえでテーマを決めていけば相談し
やすいのでは。テーマがなければボランティアセンターに相談

していくのもいいのでは。

委員：活用しているところもあるので、事例をだしていけば進めていくことができるのではないかな。

委員：ボランティアセンターの来年度の事業で子ども食堂を考えたが場所がなかった。市民センターでとも考えたが。

委員：自治会館の使用方法などについて市でアンケートは行わないのか。

事務局：高齢介護課で高齢者の居場所に関するアンケートを行ったようではある。

委員：自分の地域の自治会館は複数の自治会で自治会館を使用している。自治会館を活用してほしいが管理人が常駐しているわけではないので鍵の問題がある。

先日、ささえあいフェスティバルを開催したところ1000人以上来場者があった。いいイベントだから来てだけでは人はこない、何か戦略をたてていかないと人はこない。やる内容を変更する、関われる方を増やしていくのがいいのか難しいところである。

委員長：ささえあいフェスティバルに参加したが、多くの方が関わっていて地域協働ではないかな。

委員：防災ボランティアを行っている。社会福祉法で地域貢献が義務づけられ、今度、高齢者施設と自治会と合同で避難訓練を行う。

委員：青梅市民センターのオリンピックに関する講座に参加をした。オリンピックの会場をというより、レガシーとして残せるのは意識ではないかと感じた。

市民協働で新生涯施設をどのようにしたらいいのか考えていけたらいい。

事務局：教育委員会、青梅市民センター機能も入る。どのようにしていくのかはこれから検討する。

委員：建設をする際に、市民の意見を聞くことも協働ではないかな。

委員：市内の各地の中学校が70周年を迎えているが、70年前は地域で大事なことは、力を合わせて住民たちで地域を作ってい

くという時代であったが、市がやってくれる時代になっている。
った。

委員：学校を中心とした地域コミュニティが崩れていっている。人が集まる場所がないと協働はできない。人口が減っていったら何もできない。

委員長：このようなことがテーマで、行政職員は取り組んでいると思う。ワンパワーで取り組んでいるのが大きなテーマである。

委員：この問題は他市でもある。居場所、協働、防災の有り方について、市民がどう関わっていけばいいか議論してみてもどうか。

委員：青梅に住んでいる人が、青梅の魅力を発信していく。

委員長：協働という立場として、何か提案できることが出せばいい。

委員：協働とは何か知らない人もたくさんいるのでは。

今度、4世代が交流するイベントを開催しますが、広報掲載などしてくが、小さなことの積み重ねで行えることを感じた。70代の方を巻き込むことを行っていきたい。また、市民提案協働事業の青梅サマーフェスティバルは、多世代交流だと思った。

委員長：以上で本日の委員会を終了したい。次回は、今までの話し合った内容を市民協働事業推進会議への報告としてまとめていきたい。